

Windows ストア版 VMware Horizon Client の使用

2014 年 6 月
Horizon View

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001056-04

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2012–2014 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報.

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

Windows ストア版 VMware Horizon Client の使用	5
セットアップとインストール	5
システム要件	5
Horizon Client 向けの View 接続サーバの準備	6
サポートされているデスクトップのオペレーティング システム	6
Windows ストア版 Horizon Client のインストール/アップグレード	6
Horizon Client で使用できるヘルプ トピック	7
VMware によって収集される Horizon Client データ	7
URI を使用した構成 Horizon Client	9
vmware-view URI を作成するための構文	10
vmware-view URI の例	11
サーバ接続とデスクトップの管理	13
リモート デスクトップへの初回ログイン	13
サーバの保存リストの管理	14
[スタート] 画面でデスクトップショートカットの固定または固定解除	14
デスクトップからの切断	15
デスクトップからのログオフ	15
デスクトップの切り替え	16
リモート デスクトップの使用	17
機能サポート一覧	17
動作およびナビゲーションのヘルプ	17
マルチタスク	19
テキストのコピーおよび貼り付け	19
VMware Horizon View アプリケーションの終了	20
国際化と国際キーボード	20
Horizon Client のトラブルシューティング	20
Horizon Client の応答の停止またはリモート デスクトップのフリーズ	20
デスクトップのリセット	21
VMware Horizon View アプリケーションのアンインストール	21
プロキシ使用時の接続構築に関する問題	22
テクニカル サポートに送付するためにログを収集	22
インデックス	23

Windows ストア版 VMware Horizon Client の使用

本『Windows ストア版 VMware Horizon Client の使用』ガイドは、データセンターのリモート デスクトップに接続するために Windows 8.1、Windows 8.1 RT、または Windows 8.1 Pro デバイスに VMware Horizon™ Client ソフトウェアをインストールして使用する情報を提供します。

このドキュメントでは、Windows ストア版 Horizon Client をインストールおよび使用するためのシステム要件および手順について説明しています。

この情報は、Windows 8.1、Windows 8.1 RT、または Windows 8.1 Pro クライアント デバイスを含む View 展開環境を設定する必要がある管理者を対象としています。これらの情報は、仮想マシンテクノロジーおよびデータ センターの運用に精通している経験豊富なシステム管理者向けに記述されています。

セットアップとインストール

Windows ストア クライアント用に View 展開環境を設定する場合は、特定の View 接続サーバの構成設定を使用し、View サーバと Windows 8.1 デバイス クライアントのシステム要件を満たし、VMware Horizon Client アプリケーションをインストールする必要があります。

システム要件

Horizon Client は、Windows 8.1、Windows 8.1 RT、および Windows 8.1 Pro のさまざまなデバイスにインストールできます。

Horizon Client をインストールするデバイスとその周辺機器は、一定のシステム要件を満たしている必要があります。

オペレーティング システム

- Windows ストア版 Horizon Client 2.3 および 2.4 : Windows 8.1、Windows 8.1 RT、または Windows 8.1 Pro
- Windows ストア版 Horizon Client (Tech Preview) 2.0 および 2.1 : Windows 8 または Windows 8 RT

外部キーボード

(オプション) お使いのデバイスがサポートする Bluetooth および物理的に接続されたキーボードの詳細については、デバイスのメーカーからのドキュメントを参照してください。

View 接続サーバ、セキュリティ サーバ、および View Agent

View 5.0.x 以降の最新メンテナンス リリース

VMware ではセキュリティ サーバの使用を推奨しています。これにより、お使いのデバイスでは VPN 接続が不要になります。

リモート デスクトップの表示プロトコル

- Windows ストア版 Horizon Client 2.3 および 2.4 : PCoIP のみ
- Windows ストア版 Horizon View Client (Tech Preview) 2.0 および 2.1 : RDP のみ

Horizon Client 向けの View 接続サーバの準備

エンドユーザーがリモートデスクトップに接続できるようにするには、管理者が特定のタスクを実行する必要があります。

エンドユーザーが View 接続サーバまたはセキュリティサーバに接続して、リモートデスクトップにアクセスできるようになるには、特定のプールの設定およびセキュリティの設定を構成する必要があります。

- VMware が推奨するようにセキュリティサーバを使用している場合は、View 接続サーバ 4.6.x の最新メンテナンスリリースと View セキュリティサーバ 4.6.x 以降のリリースを使用していることを確認します。『View インストールガイド』を参照してください。
- クライアントデバイスに安全なトンネル接続を使用する予定で、その安全な接続が View 接続サーバまたはセキュリティサーバの DNS ホスト名を使用して構成される場合には、この DNS 名がクライアントデバイスによって解決できることを確認します。

安全なトンネルを有効または無効にするには、View Administrator で [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログボックスに移動して、[デスクトップへの安全なトンネル接続を使用する] チェックボックスを使用します。

- サーバ証明書が完全に検証可能であることを確認します:
 - View 接続サーバインスタンスまたはセキュリティサーバに、クライアントが完全に検証できる (Horizon Client で入力したホスト名を使用してクライアントが完全に確認できるセキュリティ証明書があることを確認します。
 - 安全なトンネル接続を使用する予定の場合、トンネルサーバ (View 接続サーバインスタンスまたはセキュリティサーバ) は、クライアントが検証できるセキュリティ証明書を持ちます。Horizon Client で入力するサーバ名は、View Administrator の [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログボックスに表示される [外部 URL] 設定のホスト名と一致する必要があります。
- デスクトッププールが作成済みであること、および使用する予定のユーザーアカウントにリモートデスクトップへのアクセス権が付与されていることを確認します。『View 管理ガイド』のデスクトッププールの作成についてのトピックを参照してください。
- Horizon Client で、RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、View 接続サーバでこの機能を有効にする必要があります。RADIUS 認証は、View 5.1 以降の View 接続サーバで使用できます。詳細については、『View 管理ガイド』の 2 要素認証についてのトピックを参照してください。
- デスクトッププールが PCoIP 表示プロトコルを使用する設定になっていることを確認します。『View 管理ガイド』を参照してください。

サポートされているデスクトップのオペレーティングシステム

管理者は、ゲストオペレーティングシステムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲストオペレーティングシステムに View Agent をインストールします。エンドユーザーは、クライアントデバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。

サポートされているゲスト OS のリストについては、『View 4.6、5.x、または 6.x インストールガイド』の「View Agent でサポートされているオペレーティングシステム」のトピックを参照してください。

Windows ストア版 Horizon Client のインストール/アップグレード

Windows ストア版 Horizon Client は Windows ストアアプリケーションで、他の Windows ストアアプリケーションと同じようにインストールします。Windows ストア版 Horizon Client は、Windows 8.1、Windows 8.1 RT、Windows 8.1 Pro を実行するタブレット、デスクトップコンピュータ、またはノート PC にインストールできます。

開始する前に

- VMware View Client のバージョン 2.0 または 2.1 (Tech Preview としてリリース) からアップグレードする場合は、最新バージョンをインストールする前にアプリケーションをアンインストールします。バージョン 2.0 または 2.1 をアンインストールしないと、アップグレード時に一部の設定が正しく変更されない可能性があります。
- デバイスを未だセットアップしていなければ行ってください。デバイスの製造メーカーのユーザーガイドを参照してください。

- VMware Horizon Client インストーラを含むダウンロード ページの URL を調べておきます。この URL は、<http://www.vmware.com/go/viewclients> の VMware ダウンロード ページの場合と、Windows ストアの場合があります。

手順

- 1 Windows 8.1、Windows 8.1 RT、または Windows 8.1 Pro デバイスで、Windows ストアの VMware Horizon View アプリケーションを参照または検索します。
- 2 アプリケーションをダウンロードしてインストールしてください。

次に進む前に

スタート画面に [VMware Horizon View] アプリケーション アイコンを表示するには、アプリケーションをスタート画面に固定する必要があります。

Horizon Client で使用できるヘルプ トピック

Horizon Client 内からヘルプ システムにアクセスするには、右からスワイプして [設定] パネルを表示し、[ヘルプ] をタップします。

ヘルプ システムは Web ブラウザの機能および一部の追加機能を使用して製品情報へのアクセスを支援します。引用符、ワイルドカード、およびブール演算子を含むクエリを使用してヘルプを検索できます。手順については、[?] (疑問符) アイコンをヘルプ システムのツールバーでクリックします。

VMware によって収集される Horizon Client データ

所属する企業がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加している場合、VMware は Horizon Client の特定フィールドのデータを収集します。機密情報が含まれるフィールドは、匿名扱いとなります。

VMware は、クライアント上で情報を収集し、ハードウェアとソフトウェアの互換性を優先度付けします。社内の管理者がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加を決めた場合、VMware はお客様のご要望に対する VMware の対応を改善する目的で、現在ご使用の配置に関する匿名データを収集します。企業が特定できるような情報は収集されません。Horizon Client の情報は最初に View 接続サーバに送信されてから、View サーバ、デスクトップ プール、およびリモート デスクトップのデータと共に VMware に送られます。

情報は View 接続サーバへ送信される途中で暗号化されますが、クライアント システムの情報は暗号化なしで、ユーザー固有のディレクトリ内に記録されます。この記録には、個人情報に含まれません。

VMware カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加するには、View 接続サーバをインストールする管理者が View 接続サーバインストール ウィザードを実行しているときに選択するか、インストール後に View Administrator でオプションを設定します。

表 1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して Horizon Client で収集されるデータ

説明	このフィールドは匿名になりますか？	値の例
Horizon Client アプリケーションのメーカー	いいえ	VMware
製品名	いいえ	VMware Horizon Client
クライアント製品のバージョン	いいえ	(形式は <x.x.x-yyyyyy> で、<x.x.x> はクライアントのバージョン番号、<yyyyyy> はビルド番号です。)
クライアントのバイナリ アーキテクチャ	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ i386 ■ x86_64 ■ arm

表 1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して Horizon Client で収集されるデータ (続き)

説明	このフィールドは匿名になりますか？	値の例
クライアントのビルド名	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware-Horizon-View-Client-Win32-Windows ■ VMware-Horizon-View-Client-Linux ■ VMware-Horizon-View-Client-iOS ■ VMware-Horizon-View-Client-Mac ■ VMware-Horizon-View-Client-Android ■ VMware-Horizon-View-Client-WinStore
ホスト OS	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 8.1 ■ Windows 7、64 ビット Service Pack 1 (Build 7601) ■ iPhone OS 5.1.1 (9B206) ■ Ubuntu 10.04.4 LTS ■ Mac OS X 10.7.5 (11G63)
ホスト OS のカーネル	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 6.1.7601 SP1 ■ Darwin Kernel バージョン 11.0.0:Sun Apr 8 21:52:26 PDT 2012;root:xnu-1878.11.10~1/RELEASE_ARM_S5L8945X ■ Darwin 11.4.2 ■ Linux 2.6.32-44-generic #98-Ubuntu SMP Mon Sep 24 17:27:10 UTC 2012 ■ 不明 (Windows ストア版)
ホスト OS のアーキテクチャ	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ x86_64 ■ i386 ■ armv71 ■ ARM
ホスト システムのモデル	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Dell Inc. OptiPlex 960 ■ iPad3,3 ■ MacBookPro8,2 ■ Dell Inc. Precision WorkStation T3400 (A04 03/21/2008)
ホスト システムの CPU	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E8400 @ 3.00GH ■ Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q6600 @ 2.40GH ■ 不明 (iPad)
ホスト システムのプロセッサのコア数	いいえ	例： 4
ホスト システムのメモリ容量 (MB)	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 4096 ■ 不明 (Windows ストア版)
接続された USB デバイスの数	いいえ	2 (USB デバイスのリダイレクトは Linux、Windows および Mac OS X クライアントでのみサポートされています。)
同時並行する USB デバイスの最大接続数	いいえ	2
USB デバイス ベンダー ID	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Kingston ■ NEC ■ Nokia ■ Wacom

表 1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して Horizon Client で収集されるデータ (続き)

説明	このフィールドは匿名になりますか？	値の例
USB デバイス製品 ID	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ DataTraveler ■ ゲームパッド ■ ストレージ ドライブ ■ 無線マウス
USB デバイス ファミリ	いいえ	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ セキュリティ ■ ヒューマン インターフェイス デバイス ■ イメージング
USB デバイス使用数	いいえ	(デバイスが共有された回数)

URI を使用した構成 Horizon Client

Uniform Resource Identifier (URI) を使用して作成できるリンク付きの Web ページや電子メールでは、エンドユーザーがクリックすると Horizon Client が起動したり、View 接続サーバに接続したり、特定の構成オプションを持つ特定のデスクトップを起動したりできます。

エンドユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、リモート デスクトップへのログイン プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンドユーザーは入力する必要がありません。

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- Active Directory ユーザー名と異なる場合、RADIUS または RSA SecurID ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップ表示名
- セッションのリセット、ログオフ、開始を含むデスクトップアクション

重要 この機能を使用するには、Horizon Client 2.0 以降が必要です。

URI を作成するには、Horizon Client 固有のパスとクエリ部分と共に **vmware-view** URI スキーマを使用します。

注意 クライアント ソフトウェアがエンドユーザーのクライアント コンピュータにすでにインストールされている場合にのみ、URI を使用して Horizon Client を起動することが可能です。

vmware-view URI を作成するための構文

構文には、**vmware-view** URI スキーム、デスクトップを指定するためのパス部分、そしてオプションでデスクトップのアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

VMware Horizon View URI の仕様

以下の構文を使用して Horizon Client を起動するための URI を作成します。

```
vmware-view://[<varname id="VARNAME_E0F8F9951BC4471D9871655A18782C9E">authority-part</varname>][/<varname id="VARNAME_7B21DCA6CDE942BBB914ADD20452590B">path-part</varname>][?<varname id="VARNAME_217F9AF17A3745369FD8E2154505D735">query-part</varname>]
```

必要となる唯一の要素は URI スキーム **vmware-view** です。一部のクライアント OS のバージョンによっては、スキーマ名は大文字と小文字の区別があります。したがって、**vmware-view** を使用してください。

重要 すべての部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があり、次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、<http://www.utf8-chartable.de/> の URL エンコーディング資料を参照してください。

<authority-part>

サーバアドレス、オプションでユーザー名、非デフォルト ポート番号、またはその両方を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ユーザー名を指定するには、以下の構文を使用します:

```
user1@<varname id="VARNAME_640D14F5E64B44E189F204DC09A8248B">server-address</varname>
```

ドメインが含まれる UPN アドレスを指定できません。ドメインを指定するには、URI で **domainName** クエリ部分を使用できます。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します:

```
<varname id="VARNAME_1BAB6153D2834B1490509093A1961D1F">server-address</varname>:<varname id="VARNAME_2296A4E54893485C852FFE94067114D7">port-number</varname>
```

<path-part>

デスクトップを指定します。デスクトップ表示名を使用します。表示名にスペースが含まれている場合、**%20** エンコーディング機能を使用してスペースを表します。

<query-part>

使用するための設定オプション、または実行するデスクトップアクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間アンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します:

```
<varname id="VARNAME_48A6B3A0E1184943BC1206017B78B9D5">query1</varname>=<varname id="VARNAME_9B9916FF3D3540D4AA5622F9C828F072">value1</varname>[&<varname
```

```
id="VARNAME_6BCA2912EC454A5683D586754BF89DCE">query2</varname
>=<varname
id="VARNAME_F698C39E83D34D639C943ACDF828BAFE">value2</varname
>...] ]
```

サポートされるクエリ

このトピックでは、このタイプの Horizon Client でサポートされるクエリを示します。デスクトップ クライアントやモバイル クライアントなどの複数のクライアント タイプ用に URI を作成する場合は、クライアント システムの各タイプの『VMware Horizon Client の使用』を参照してください。

操作

表 2. アクション クエリで使用できる値

値	説明
参照	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップのリストを表示します。このアクションを使用している場合、デスクトップを指定する必要はありません。
スタート セッション	指定したデスクトップを起動します。アクション クエリが提供されず、デスクトップ名が提供されなければ、 スタート セッション がデフォルト アクションとなります。
リセット	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されていないデータは失われます。リモート デスクトップのリセットは、物理 PC のリセット ボタンを押すことに相当します。
ログオフ	リモート デスクトップのゲスト OS からユーザーをログオフします。

domainName

リモート デスクトップに接続しているユーザーに関連付けられているドメイン。

tokenUserName

RSA または RADIUS ユーザー名を指定します。RSA または RADIUS ユーザー名が Active Directory ユーザー名と異なる場合に限りこのクエリを使用します。このクエリを指定せず、RSA または RADIUS 認証が必要である場合、Windows ユーザー名が使用されます。この構文は、**tokenUserName=<name>** です。

vmware-view URI の例

vmware-view URI スキームでハイパーテキストリンクまたはボタンを作成し、これらのリンクを電子メールまたは Web ページに含めることができます。エンド ユーザーはこれらのリンクをクリックして、たとえば、指定した起動オプションで特定のリモート デスクトップを起動できます。

URI 構文の例

各 URI の例に続いて、URI リンクをクリック後にエンド ユーザーに表示される事柄について説明します。

1 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session

Horizon Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Primary Desktop (プライマリ デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

注意 デフォルトの表示プロトコルおよびウィンドウ サイズが使用されます。デフォルトの表示プロトコルは PCoIP です。デフォルトのウィンドウ サイズはフル スクリーンです。

2 vmware-view://view.mycompany.com:7555/Primary%20Desktop

この URI は前の例と同じ効果がありますが、View 接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用するところが異なります (デフォルトのポートは 443 です)。デスクトップ ID が提供されるので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていない場合であっても起動されます。

3 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?desktopProtocol=PCoIP

Horizon Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力されます。ユーザーはドメイン名とパスワードを入力する必要があります。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。PCoIP 表示プロトコルを使用して接続します。

4 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?domainName=mycompany

Horizon Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力され、[ドメイン] テキスト ボックスに [mycompany] が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 vmware-view://view.mycompany.com/

Horizon Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続するためのログイン画面が表示されます。

6 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=reset

Horizon Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続されます。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると、Horizon Client には、プライマリ デスクトップのリセット操作を確認するように指示するダイアログ ボックスが表示されます。クライアントのタイプによっては、リセットが行われた後、リセットが成功したかどうかを示すメッセージがユーザーに表示される場合があります。

注意 このアクションは、View 管理者がこの機能をエンド ユーザーに対して有効にしている場合にのみ可能です。

7 vmware-view://

クライアントがすでに実行中である場合、Horizon Client アプリが前面に表示されます。クライアントがまだ実行されていない場合は、Horizon Client アプリが起動します。

HTML コードの例

URI を使用してハイパー リンクおよびボタンを作成し、電子メールまたは Web ページに含めることができます。以下の例は、[Test Link (テスト リンク)] というハイパー リンクおよび [TestButton] というボタンのコードを記述するために最初の URI の例から URI を使用する方法を示します。

```
<html>
<body>
```

```
<a href="vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session">Test Link</a><br>
```

```
<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href='vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session'"></form>
<br>
```

```
</body>
</html>
```

サーバ接続とデスクトップの管理

Horizon Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、接続するサーバのリストを編集し、リモート デスクトップにログインするか、リモートデスクトップからログオフします。トラブルシューティングを目的として、自分に割り当てられたリモート デスクトップをリセットすることもできます。

管理者によるリモート デスクトップのポリシーの構成方法によっては、エンド ユーザーはデスクトップで多くの操作を実行できるようになります。

リモート デスクトップへの初回ログイン

エンド ユーザーがリモート デスクトップにアクセスする前に、クライアント デバイスからリモート デスクトップにログインすることが可能であることをテストします。ログインするには、View 接続サーバの URL を指定し、ユーザー アカウントの認証情報を入力する必要があります。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- ログイン用のドメイン名を取得します。
- 管理タスクの実行については、[「Horizon Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 6\)」](#) で説明しています。
- 社内ネットワークの外部から接続し、リモート デスクトップへのアクセスにセキュリティ サーバを使用していない場合、使用しているクライアント デバイスが VPN 接続を使用していることを確認し、この接続をオンにします。

重要 VMware では、VPN よりもセキュリティ サーバの使用を推奨しています。

社内にワイヤレス ネットワークがあって、デバイスが使用できるリモート デスクトップにルーター アクセスが可能である場合、View セキュリティ サーバまたは VPN 接続を設定する必要はありません。

- リモート デスクトップへのアクセスを提供するサーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) があることを確認します。ポート番号が 443 ではない場合は、ポート番号も必要です。
- View 接続サーバが示すセキュリティ証明書をクライアントが完全に検証できることを確認します。クライアント デバイスが証明書を検証できなければ、クライアントはサーバに接続できません。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。

ドメイン内のすべての Windows クライアントシステムに自己署名付ルート証明書を配布する手順については、[「View インストール」ドキュメントの「信用されるルート証明機関を追加」トピック](#)を参照してください。

- 安全なトンネル接続を使用する予定の場合、トンネル サーバ (View 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバ) は、クライアントが検証できるセキュリティ証明書を持ちます。Horizon Client で入力するサーバ名は、View Administrator の [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログ ボックスに表示される [外部 URL] 設定のホスト名と一致する必要があります。

手順

- 1 スタート画面上で、[VMware Horizon View] アプリケーション アイコンをタップします。
- 2 [+] (サーバの追加) ボタンをタップして、View Server の名前を入力し、[接続] をタップします。

または、画面の下から上にスワイプしてアプリケーション コマンドを表示し、[サーバの追加] ボタンをタップすることもできます。

Horizon Client と View server との接続には常に SSL が使用されます。SSL 接続のデフォルト ポートは 443 です。View server がデフォルト ポートを使用するように構成されていない場合、以下の例にあるフォーマットを使用します。**view.company.com:1443**。

ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。

- 3 RSA SecurID 認証情報または RADIUS 認証情報を求められたら、ユーザー名とパスコードを入力して、[ログイン] をタップします。

パスコードには、PIN とトークンで生成された番号が含まれる場合があります。

- 4 再度、RSA SecurID 認証情報または RADIUS 認証情報を入力するダイアログが表示されたら、トークンで次に生成された番号を入力します。

PIN および、過去に生成され、入力したものと同一番号は入力しないでください。必要に応じて、新しい番号が生成されるのを待ちます。

この手順は、最初のパスコードの入力をミスした、または RSA サーバの構成設定が変更された時にのみ、必要になります。

- 5 求められたら、Active Directory の認証情報を入力します。
 - a 少なくとも 1 つのデスクトップ プールを使用する資格が付与されているユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - b ドメインを選択します。
 - c [ログイン] をタップします。
- 6 デスクトップをタップして接続します。

Microsoft RDS ホスト上でホストされているセッション ベースのリモート デスクトップに接続しようとしており、デスクトップが Microsoft RDP 表示プロトコルを使用するようにすでに設定されている場合、すぐには接続できません。リモート オペレーティングシステムからログオフして、VMware から PCoIP 表示プロトコルで接続が行われるようにすることを求められます。

サーバへの初回接続後、サーバのショートカットが Horizon Client のホーム画面に保存され、ユーザー名が保存されます。この情報を保存しないようにするには、「[サーバの保存リストの管理 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

次に進む前に

リモート デスクトップのショートカットを [スタート] 画面に固定すると便利です。この方法を利用すると、デスクトップを選択する前に、Horizon Client を開いてサーバを選択する必要がなくなります。「[\[スタート\] 画面でデスクトップショートカットの固定または固定解除 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

サーバの保存リストの管理

View 接続サーバに問題なくログインした後で、サーバ名を Horizon Client ホーム画面の [最近使用したサーバ] リストに保存できるようにクライアントを構成できます。このリストは削除することもできます。

手順

- 1 Horizon Client ホーム画面で、右からスワイプしチャーム リストを表示します。
- 2 [設定] チャームをタップします。
- 3 [全般設定] をタップします。
- 4 [詳細] セクションで、[最近使用したサーバについての情報を保存] コントロールをタップしてオンまたはオフに切り替えます。

コントロールをオフに切り替えると、すべてのサーバショートカットが削除されます。

[スタート] 画面でデスクトップ ショートカットの固定または固定解除

[スタート] 画面にデスクトップショートカットを固定すると、リモート デスクトップにログインするときの手順を省略できます。

手順

- 1 スタート画面上で、[VMware Horizon View] アプリケーション アイコンをタップします。

- 2 [サーバ] リストでサーバをタップするか、必要に応じて画面下部からスワイプしてアプリケーションコマンドを表示し、[サーバの追加] ボタンをタップして、View 接続サーバまたはセキュリティ サーバの名前を入力し、[接続] をタップします。

ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。

- 3 認証情報を入力して [ログイン] をタップします。
- 4 Horizon Client では、リモート デスクトップのショートカットを表示するデスクトップ画面で、ショートカット アイコンを長押し（または右クリック）にします。
デスクトップが選択され、画面の下にアプリケーション コマンドが表示されます。
- 5 デスクトップ ショートカットの名前を固定、固定解除、または変更します。

アクション	説明
固定	ショートカットが [スタート] 画面に固定されていない場合は、画面下部にあるアプリケーションコマンドの [スタート画面に固定] をタップします。表示されるダイアログボックスでも、デスクトップの名前を変更できます。 アプリケーションコマンドの項目が [スタート画面から固定解除] に切り替わります。
固定解除	ショートカットが [スタート] 画面に固定されている場合は、アプリケーションコマンドの [スタート画面から固定解除] をタップします。 他の [スタート] 画面のショートカットと同じようにショートカットを固定解除することもできます。[スタート] 画面のタイトルバーをタッチして下にスワイプすると、[スタート画面から固定解除] コマンドが画面の下に表示されます。
ショートカット名の変更	ショートカットの固定解除を行い、別名で再び固定します。

デスクトップからの切断

アプリケーションがリモート デスクトップで開いたままになるように、ログオフせずにリモート デスクトップから切断できます。

リモート デスクトップ オペレーティング システムにログインしていれば、画面下部にあるアプリ コマンドの [切断] をタップして切断できます。

アプリケーション コマンドを表示するには、画面の下からスワイプするか、キーの組み合わせ Win+Z を使用します。Windows 8.1 Update を使用している場合は、画面の上からスワイプするか、外部マウス デバイスを使用して VMware Horizon View のタイトル バーを右クリックすることもできます。

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを構成できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

デスクトップからのログオフ

Horizon Client でリモート デスクトップを開いていない場合でも、リモート デスクトップ ショートカットを使用してリモート デスクトップ オペレーティング システムからログオフできます。

リモート デスクトップに現在接続してログインしている場合、Windows の [スタート] メニューを使用してログオフしてください。Windows でログオフ後、デスクトップは切断され、Horizon Client が閉じます。

ログオフせずにリモート デスクトップから切断すると、アプリケーションはリモート デスクトップで開いたままになります。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- リモート デスクトップで開いている未保存のファイルは、ログオフ操作中に閉じられることに注意してください。

手順

- Horizon Client では、リモート デスクトップのショートカットを表示するデスクトップ画面で、ショートカットアイコンを長押し（または右クリック）にします。
デスクトップが選択され、画面の下にアプリケーション コマンドが表示されます。
- [ログオフ] をタップします。
その代わりに、リモート デスクトップ オペレーティングシステムにログインしていれば、画面の下部にあるアプリケーション コマンドの [切断] - [ログオフ] をタップしてログオフできます。
アプリケーション コマンドを表示するには、画面の下からスワイプするか、キーの組み合わせ Win+Z を使用します。Windows 8.1 Update を使用している場合は、画面の上からスワイプするか、外部マウス デバイスを使用して VMware Horizon View のタイトル バーを右クリックすることもできます。
- デスクトップのショートカットからデスクトップにアクセスした後に入力のダイアログが表示されたら、RSA のユーザー名とパスコード、Active Directory のユーザー名とパスワードのいずれかまたは両方を入力します。

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- 画面の下にあるアプリケーション コマンドの [切断] ボタンをタップし、[切断] をタップします。
アプリケーション コマンドを表示するには、画面の下からスワイプするか、キーの組み合わせ Win+Z を使用します。Windows 8.1 Update を使用している場合は、画面の上からスワイプするか、外部マウス デバイスを使用して VMware Horizon View のタイトル バーを右クリックすることもできます。
ログインしていたサーバのバージョンに応じて、サーバのリストまたはサーバのデスクトップのリストに戻ります。
- 同じサーバ上、または異なるサーバからリモート デスクトップを選択します。

オプション	説明
サーバのリストから	目的のデスクトップへの接続を仲介するサーバを選択または追加し、[接続] をタップして再びログインします。
デスクトップのリストから	<ul style="list-style-type: none"> ■ 同じサーバからデスクトップを選択するには、デスクトップのアイコンをタップします。 ■ 別のサーバからデスクトップを選択するには、画面左上部分の戻る矢印をタップし、[ログオフ] をタップします。これで別のサーバを選択または追加して、そのサーバにログインできます。

リモート デスクトップの使用

Horizon Client には、リモート デスクトップ機能に加えて、他の Windows ストア アプリと共通の機能が含まれていません。

機能サポート一覧

一部の機能は、クライアントのタイプによってサポートされる場合とされない場合があります。たとえば、USB アクセスは、Windows 版 Horizon Client ではサポートされますが、Windows ストア版 Horizon Client ではサポートされません。

表 3. Windows ストア版 Horizon Client システムでサポートされるリモート デスクトップ機能

機能	Windows 8.x デスクトップ	Windows 7 デスクトップ	Windows Vista デスクトップ	Windows XP デスクトップ	Windows Server 2008 R2 デスクトップ
RSA SecurID または RADIUS	○	○	X	X	○
シングル サインオン	○	○	X	X	○
RDP 表示プロトコル					
PCoIP 表示プロトコル	○	○	X	X	X
個人設定管理					
USB アクセス					
Wyse MMR					
Windows 7 MMR					
リアルタイム オーディオ-ビデオ (RTAV)					
仮想プリンタ					
ロケーション ベースの印刷					
スマート カード					
複数のモニタ					

上記の機能の詳細および制限事項については、『View アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

Windows ストア版 Horizon Client 向け Windows デスクトップでサポートされている機能には、以下の制限があります。

- Windows 8.x デスクトップは、View 5.2 以降のサーバおよびリモート デスクトップを使用している場合に限りサポートされます。
- Windows Server 2008 R2 デスクトップは、View 5.3 以降のサーバおよびリモート デスクトップを使用している場合に限りサポートされます。

動作およびナビゲーションのヘルプ

Horizon Client には、リモート デスクトップ内の移動や、リセット、リモート デスクトップからのログオフや切断などの操作を実行できるようにするためのアプリケーション コマンドがいくつも用意されています。

Horizon Client アプリケーション コマンド

他の Windows ストア アプリケーションと同様に、Horizon Client アプリケーション コマンドは、リモート デスクトップへのログイン中に画面の下からスワイプすると、ツールバーに表示されます。アプリケーション コマンドには、リモート デスクトップでさまざまな動作を実行したり、デスクトップ上を移動できるようにするためのコントロールが含まれています。

キーボードとマウスを使用している場合、Win+Z キーの組み合わせを使用すると、アプリケーションコマンドを表示または非表示にできます。

リモート デスクトップのオペレーティング システムが Windows 8.x の場合、アプリケーション コマンド、チャーム、またはリモート デスクトップのオペレーティング システムの [スタート] メニューの表示などを行うアクションのために、ツールバーの右側に追加のアプリケーション コマンドが表示されます。

オンスクリーン キーボード

リモート デスクトップ内からオンスクリーン キーボードを表示するには、画面の右側からスワイプして、[設定] チャームをタップし、[キーボード] をタップして、[タッチ キーボードおよび手書きパネル] を選択します。

ログイン プロンプトを完了して View server に接続し、リモート デスクトップにログインすると、デバイスにキーボードが接続されていなければ、テキスト ボックスをタップしたときにオンスクリーン キーボードが自動的に表示されます。しかし、リモート デスクトップのオペレーティング システムにログインした後はオンスクリーン キーボードが自動的に表示されなくなり、[キーボード] コマンドを使用してオンスクリーン キーボードを表示する必要があります。

また、アプリケーション コマンドの [入力] をタップしてからローカル入力バッファの内側をタップして、キーボードを表示することもできます。ローカル入力バッファの左側のペン アイコンをタップすると、オンスクリーン キーボードを表示したまま入力バッファのオン/オフが切り替わります。

重要 オンスクリーン キーボードがリモート デスクトップまたはアプリケーションの一部に重なっている場合は、キーボードが重ならないように、指でアプリケーションを上をスクロールすることができます。

文字列の送信

画面の下のアプリケーションコマンドで、[入力] コマンドをタップすると、ローカル入力バッファが表示されます。テキスト ボックスに入力した文字列は、[送信] をタップするまでアプリケーションに送信されません。たとえば、Notepad などのアプリケーションを開き、アプリケーションコマンドの [入力] をタップした場合、入力した文字列は [送信] をタップするまで Notepad アプリケーション内に表示されません。ローカル入力バッファを使用して、国際キーボードに関する問題を回避します。ローカル入力バッファの左側のペンをタップすると、入力バッファのオン/オフが切り替わります。ローカル入力バッファで、手書きパネルを使用することもできます。

ネットワーク接続が低速の場合、この機能を使用します。つまり、この機能を使用すると、文字を入力しても、アプリケーション内に直ちに表示されません。この機能を使用して、最大 1,000 文字を入力し、[送信] または Enter キーをタップして、アプリケーション内に 1,000 文字すべてを同時に表示させることができます。

クリック

他のアプリと同様に、ユーザー インターフェイスのエレメントをタップしてクリックします。

右クリック

他のアプリと同様に、デバイスにマウスがなければ、タッチ、ホールド、およびリリースで右クリック メニューを表示できます。

スクロール

画面上で、2 本指でタップしてから、ドラッグして上下にスクロールします。左右へのスクロールはサポートされていません。

音声、音楽、そしてビデオ

リモート デスクトップでオーディオおよびビデオを再生できます。ボリュームを調整するには、画面の右側からスワイプし、[設定] チャームをタップして、ボリューム コントロールを使用します。

アプリケーションのウィンドウを閉じる、Ctrl+Alt+Del を送信する、Alt キーを使用する、アプリケーションの実行を開始するためのキーの組み合わせ

アプリケーション コマンドの [組み合わせキー] をタップして、次の項目にアクセスします。

- [Alt+F4] 項目は、現在アクティブなアプリケーション ウィンドウを閉じます。
- Windows のキー組み合わせ Ctrl+Alt+Del はリモート デスクトップではサポートされないため、代わりに [Ctrl+Alt+Del] 項目を使用します。
- [Win+R] 項目を使用すると、アプリケーションの実行が開きます。
- Alt キーはリモートデスクトップでサポートされないため、代わりに [Alt] 項目を使用します。

タッチ ポインタ コントロール

タッチ ポインタ機能を使用すれば、画面全体がマウス ポインタを使用するためのタッチパッドになります。この機能を使用するには、アプリケーション コマンドの [タッチ ポインタ] をタップします。コマンドは、デバイスでタッチが有効になっている場合に限って使用できます。この機能を使用すれば、以下の動作を使用できます。

- ポインタを移動するには、指でドラッグします。
- ポインタでマウス クリックを実行するには、指でタップします。
- ポインタで右クリックを実行するには、1 本の指でタッチして押したままにし、その指の右をもう 1 本の指でタップします。
- ポインタでドラッグするには、2、3 秒間 1 本の指でタッチして押したままにしてから、目的の位置にドラッグします。

マルチタスク

デスクトップ接続を切断することなく、短時間でリモート デスクトップと他のアプリを切り替えることができます。

Horizon Client アプリケーションが別のアプリケーションの隣で画面上の一部を占めるようにサイズ変更またはスナップすることもできます。スナップ機能で必要となる最小画面解像度は 1366 x 768 です。アプリケーションがスナップされる時にサーバまたはリモート デスクトップ ショートカットをタップすると、Horizon Client はフル画面モードに拡張されます。

Horizon Client は Windows ストアアプリケーションであるため、他のアプリケーションに切り替えると、Horizon Client アプリケーションは数秒間サスペンドします。Horizon Client に戻すと、アプリケーションがバックグラウンドで実行開始される前にアクティブであった同じページまたは動作に戻る場合があります。

時間が十分に経過してデスクトップへの接続が失われると、メッセージが表示されてサーバのホーム画面に戻ります。

テキストのコピーおよび貼り付け

デフォルトでは、クライアント システムからリモート デスクトップにテキストをコピーおよび貼り付けできます。管理者がこの機能を有効にすると、リモート デスクトップとクライアント システム間、または 2 台のリモート デスクトップ間でテキストをコピーおよび貼り付けすることもできます。制限事項がいくつか存在します。

View 管理者は、クライアントシステムからリモートデスクトップに対してのみ、またはリモート デスクトップからクライアントシステムに対してのみ、あるいは双方向でのコピーおよび貼り付けの操作を許可するように、この機能を設定できます。

管理者は、View Agent をリモート デスクトップに関連付けるグループポリシー オブジェクト (GPO) を使用して、コピーおよび貼り付けの機能を構成できます。詳細については、『View におけるデスクトップおよびアプリケーションの設定』のポリシーの構成についての章の View PCoIP 一般セッション変数に関するトピックを参照してください。

Horizon Client からリモート デスクトップまたはその逆方向に、各国語文字を含む任意のプレーン テキストまたはフォーマットされたテキストをコピーできますが、貼り付けされたテキストはプレーン テキストになります。最大 64KB のテキストをコピーおよび貼り付けできます。ある文字の表示フォントをサポートしていないオペレーティング システムに、該当する文字を貼り付けた場合、その文字は表示されません。たとえば、漢字をコピーして、漢字をサポートしていないオペレーティング システムに貼り付けると、その文字は表示されません。

クライアント システムからテキストをコピーして、リモート デスクトップのアプリケーションに貼り付けるには、通常の方法でコピーおよび貼り付けします。ただし、リモート デスクトップのアプリケーションケーションからテキストをコピーするには、テキストを選択してから、画面下部のアプリケーションコマンドで [クライアントにコピー] をクリックする必要があります。(アプリケーションコマンドを表示するには、画面の下からスワイプするか、Win+Z キーの組み合わせを使用します。)

画像をコピーおよび貼り付けできません。リモート デスクトップとクライアント コンピュータのファイル システム間では、ファイルもコピーおよび貼り付けできません。

VMware Horizon View アプリケーションの終了

VMware Horizon View アプリケーションは、他の Windows ストア アプリケーションと同じように終了または閉じることができます。

アプリケーションを終了する方法はいくつかあります。

手順

- 外部マウス デバイスを使用する場合は、VMware Horizon View タイトル バーが表示されるまで画面の上部をポイントし、タイトル バーの右端にある [X] をクリックする。
- VMware Horizon View アプリケーションの上部をタップし、画面の下部へドラッグする。
- キーの組み合わせ Alt+F4 を使用する。

国際化と国際キーボード

Windows ストア版 Horizon Client の本リリースでは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、繁体中国語、および韓国語のドキュメントおよびユーザー インターフェイスが利用可能です。

英語以外の言語の文字を入力するには、クライアント デバイスのキーボード レイアウトを、リモート デスクトップのキーボード レイアウトと一致するように構成する必要があります。

国際キーボードの制限

国際キーボードではいくつかの問題が発生する可能性があります。これらの問題はほとんどが日本語、韓国語、中国語のような 2 バイト文字に関連しています。

これを解決するには、Horizon Client 2.4 以降で使用可能なローカル入力バッファ機能を使用します。ローカル入力バッファを表示するには、画面の下のアプリケーションコマンドで、[入力] コマンドをタップします。テキスト ボックスに入力した文字列は、[送信] をタップするまでアプリケーションに送信されません。

Horizon Client のトラブルシューティング

ほとんどの Horizon Client の問題はデスクトップのリセットか、アプリの再起動によって解決できます。トラブルシューティングのためにログ収集を有効にし、ログ ファイルを VMware に送信することもできます。

Horizon Client の応答の停止またはリモート デスクトップのフリーズ

画面がフリーズしたときは、まずリモート デスクトップのオペレーティング システムのリセットを試みます。

問題

VMware Horizon View アプリケーションが動作しなかったり、予期せず繰り返し終了したり、リモート デスクトップがフリーズしたりします。

原因

View サーバが正しく構成され、その周囲のファイアウォールの正しいポートが開いていることを前提とすると、他の問題は一般的にモバイル デバイス上の VMware Horizon View アプリケーションまたはリモート デスクトップのゲスト OS に関係します。

解決方法

- リモート デスクトップのオペレーティング システムがフリーズする場合は、デバイスの Horizon Client を使用してデスクトップをリセットしてください。
このオプションは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合にのみ可能です。
- デバイスのアプリケーションをアンインストールして再インストールします。
- サーバに接続を試みると接続エラーが発生するときには、場合によってはプロキシ設定を変更する必要があります。

デスクトップのリセット

リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

デスクトップ オペレーティング システムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要な場合があります。

リモート デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。リモート デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることになります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。

手順

- 1 Horizon Client では、リモート デスクトップのショートカットを表示するデスクトップ画面で、ショートカット アイコンを長押し（または右クリック）にします。

デスクトップが選択され、画面の下にアプリケーション コマンドが表示されます。

- 2 [リセット] をタップします。

[リセット] コマンドは、View 管理者がそれを許可した場合で、デスクトップのステータスがその動作を実行できる場合に限って使用できます。

代わりに、リモート デスクトップ オペレーティング システムにログインしていれば、画面の下部にあるアプリ コマンドの [リセット] をタップしてリセットできます。

アプリケーション コマンドを表示するには、画面の下からスワイプするか、キーの組み合わせ Win+Z を使用します。Windows 8.1 Update を使用している場合は、画面の上からスワイプするか、外部マウス デバイスを使用して VMware Horizon View のタイトル バーを右クリックすることもできます。

- 3 デスクトップのショートカットからデスクトップにアクセスした後に入力のダイアログが表示されたら、RSA のユーザー名とパスコード、Active Directory のユーザー名とパスワードのいずれかまたは両方を入力します。

VMware Horizon View アプリケーションのアンインストール

VMware Horizon View アプリケーションをアンインストールし、再インストールすることで、Horizon Client の問題を解決できる場合があります。

他の Windows ストア アプリケーションと同じように Horizon Client をアンインストールします。

手順

- 1 デバイスの [スタート] 画面に移動してタッチし、[VMware Horizon View] アプリケーションで上下にスワイプ（または右クリック）します。
- 2 画面の下のアプリケーション コマンドで、[アンインストール] をタップします。

次に進む前に

VMware Horizon View アプリケーションを再インストールします。

[[Windows ストア版 Horizon Client のインストール/アップグレード \(P.6\)](#)] を参照してください。

プロキシ使用時の接続構築に関する問題

LAN のプロキシを使用して View 接続サーバに接続を試みて、エラーが発生することがあります。

問題

リモート デスクトップから View 接続サーバへのセキュアな接続を使用するように View 環境が設定されており、クライアント デバイスが HTTP プロキシを使用するように設定されている場合、接続できない可能性があります。

原因

Windows Internet Explorer と異なり、クライアント デバイスには、ローカル アドレスのプロキシをバイパスするためのインターネット オプションがありません。外部アドレスをブラウズするために HTTP プロキシを使用し、内部アドレスを使用して View 接続サーバに接続を試みると、**接続を確立できませんでした**というエラー メッセージが表示されます。

解決方法

- ◆ プロキシ設定を削除すると、デバイスはプロキシを使用しなくなります。

テクニカル サポートに送付するためにログを収集

ログを有効にしてテクニカル サポートに送付するためのログ バンドルを収集できます。

解決する問題によっては、テクニカル サポートに送付するログの収集を指示される場合があります。セキュア トンネル セッションを使用してリモート デスクトップに接続している場合、ログ記録は Horizon Client のパフォーマンスに影響を及ぼします。ログ記録が不要になった場合は、詳細ログ機能はオフにしてください。

開始する前に

VMware のテクニカル サポートに問い合わせいただければ、収集するログ ファイルの送付先を判断できます。

手順

- 1 Horizon Client で、画面の右側からスワイプし、[設定] チャームをタップし、[全般設定] をタップします。
- 2 [ログ記録] セクションで、[詳細のログ記録を有効にする] コントロールをオンにします。
- 3 [サポート情報を収集しています] をタップし、ログ ファイルを保存するデバイスの場所に移動します。
- 4 (オプション) テクニカル サポートに送付する前にログ フォルダの **.zip** ファイルを作成するには、フォルダを右クリック（またはフォルダをタッチ、ホールド、そしてリリース）し、[送信] - [圧縮 (zip) フォルダ] を選択します。

`vmware-view-logs-<timestamp>` と呼ばれるフォルダが、指定した場所に作成されます。

次に進む前に

VMware のテクニカル サポートにログを送付します。

インデックス

H

Horizon Client

Windows 8.1 および RT デバイスのシステム要件 5

Windows 8.1 および RT デバイスのセットアップ 5

クライアント デバイスからログイン 13

トラブルシューティング 20

Horizon Client のアプリケーションコマンド 17

Horizon Client の終了 20

Horizon Client を閉じる 20

U

URI (uniform resource identifiers) 9

URI 例 11

V

View Agent、インストール要件 6

View Client 用の URI 構文 10

View Client、デスクトップから切断 15

View 接続サーバ 6

VMware Horizon View アプリケーションの終了 20

W

Windows 8.1 および RT、Horizon Client のインストール先 5

Windows ストア 6, 21

Windows ストア版 Horizon Client

アンインストール 21

インストール 6

Windows デスクトップ 17

お

オプション、構成 17

オペレーティング システム、View Agent でサポートされている 6

オンスクリーン キーボード 17

か

カスタマー エクスペリエンス プログラム、デスクトップ プール データ 7

き

キーボード 17

キーボード サポート 20

機能サポート一覧 17

く

クライアント デバイスの前提条件 6

こ

国際化 20

コピーおよび貼り付け 19

さ

サーバ接続、管理 13

し

システム要件、Windows 8.1 および RT デバイス向け 5

す

スタート画面に固定 14

せ

セキュリティ サーバ、PCoIP 接続 13

接続の問題 22

た

タッチ ポインタ コントロール、仮想 17

タブレット動作 17

て

テキスト、コピー 19

テキストのコピー 19

テキストの貼り付け 19

デスクトップ

切り替え 16

リセット 21

ログオフ 15

デスクトップの管理 13

デスクトップの切り替え 16

デスクトップのリセット 21

と

トラブルシューティング 20

トラブルシューティング、接続の問題 22

は

ハードウェア要件、Windows 8.1 および RT デバイス 5

バックグラウンドデノジックウ 19

バックグラウンドマルチタスク 19

ふ

プロキシ接続 22

へ

ヘルプシステム 7

ま

マルチタスク 19

み

右クリック 17

り

リモート デスクトップから切断 15

ろ

ログ 22

ログイン

 サーバに 13

 デスクトップ 13

ログオフ 15